



世界を目指す

BRIDGESTONE WORLD SOLAR CHALLENGE 2023出場決定

WAKAYAMA UNIV. SOLAR CAR TEAM

和歌山大学

-概要-

ソーラーカー

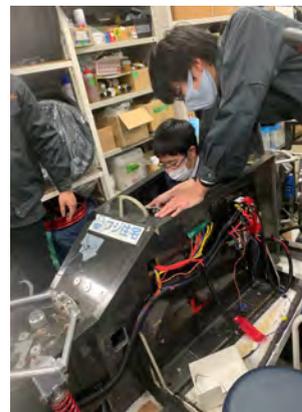
私達は桐蔭生、近大生の合同授業で和歌山大学ソーラーカープロジェクトの方々に2度インタビューをさせていただきました。

プロジェクト



ソーラーカーとはどんなものですか？

ソーラーカーは160kgほどでありスピードが出ないと思われがちですが、最高で約時速100キロメートルで走ることができます。写真のように運転席はとても狭く、一人がギリギリ入れるぐらいです。また、アクセルなどもハンドルについていて、ハンドルだけですべての操作をすることができます。また、免許がいらず、車のように操作が難しくないで車の免許を取る前にソーラーカーを運転する人もいます。



↑実際に運転席にのせてもらいました



和歌山大学ソーラーカープロジェクトについて教えてください

学生だけでソーラーカーを作って大会に出場しています。ソーラーカーの設計や製作、そのための材料を集めたり材料を自分たちで作ったり、企業様に協賛してもらうために会社を回ったり、お金の管理をしたりするなど、すべてのことを学生だけで行っています。システム工学部や経済学部、教育学部、観光学部など様々な学部の学生がいます。また、国立総合大学として初めてのBWSCというオーストラリアで行われるソーラーカーの世界大会に出場します。



どんな活動をしているのですか

ソーラーカーを作っています。しかしそれだけではなくソーラーカーの設計やその材料を集めたり自分たちで作ったり、企業様に協賛してもらうために会社を回ったり、お金の管理をしたりするなど、しなければいけないことがたくさんあります。協賛はお金のことだけでなく、Tシャツや技術も提供してもらっています。オーストラリアで行われる世界大会で完走するという目標のために現在は、空気抵抗をなくしていくため、何度も試行錯誤して、車体を丸くしようと日々努力しています。また、今回のような「和歌山ものづくり文化祭」などのイベントに出展したりして、私達の活動やソーラーカーのことをもっとたくさんの人に知ってもらいたいと思っています。



活動の楽しさや面白さはなんですか？

ソーラーカーを作ることです。そして、自分達の力でたくさんの時間をかけてできたソーラーカーが大会などで走っているところを見ることができるのがモチベーションになります。さらに、実際に大会で他のチームと競り合って追い抜いていくところを見るのがとても嬉しいです。そして大会で成績にもつながると、もっとソーラーカーづくりの楽しさを実感できます。また、イベントなどの企画、運営をすることも楽しいです。ソーラーカーを作ること以外にも楽しいことはたくさんあります。



世界大会について教えてください

オーストラリアで行われる、BWSC (Bridgestone World Solar Challenge) というソーラーカーの世界大会です。この大会は国内の周回レースとは違い、オーストラリアを縦断するコースで、オーストラリアの砂漠や公道を走ります。3000kmを超える距離を5日間で走ります。写真からわかるように日本列島よりも長く、わかりやすく言うと北海道から沖縄の距離ぐらいです。また大会ではソーラーカーの大会はただ車を走らせるだけだと思われがちですが、大会では20人が一緒に並走し、ドライバーは3人ほどで交代しながら走ります。他にも、何人かを数km前に走らせて先の天候を確認したり、坂道などのエネルギーの消耗が激しいところを確認したりなどみんなで協力してゴールを目指します。レースでは自分たちで TENT を張って自給自足をします。大会のコンディションも様々で雨が降っても、現地の車が事故を起こしていても行われます。だから車の性能だけでなく、当日のコンディションの分析やエネルギーの使い方なども勝敗に大きく関わってきます。ドライバー一人で戦っていると思われがちですが、走らない人を含め全員で戦っています。この大会はとても過酷で、砂漠で車が風に吹き飛ばされたり、車体が燃えたりするなど、完走することがとても難しい大会でもあります。出場したチームの半数が完走できなかったりする年もあるほどです。そんな過酷な大会で完走できるように、そして表彰台に立てるように頑張っていきたいと思います。



まとめ

私達はこの2回のインタビューを通して和歌山大学のソーラーカープロジェクトさんの凄さを知ることが出来ました。国内レース優勝や世界大会出場など自慢できることがたくさんあって、それを熱心に教えてくださったりと、ソーラーカーにのせていただいたりなど、とても良い経験をさせていただきました。もうすぐ世界大会があり、忙しい時期でもあるにもかかわらず、優しく私達がわかりやすいように時間をかけてインタビューさせていただきました。このインタビューを通してさらに、ソーラーカープロジェクトに興味を持つことができました。そして、これから世界に向けて頑張る和歌山大学ソーラーカープロジェクトの皆さんを応援し、さらにこの活動が多くの人に知ってもらえたらいいなと感じました。